

漏話量について

〔 1 〕 要旨

本寄書は、2004 年 11 月 30 日に完成目標のスペクトル管理標準第 3 版において、漏輪量について弊社の意見を示すものである。

〔 2 〕 漏話量について

現状の同一カッドを含む 5 回線及び同一カッドを除く 4 回線、及び漏話減衰量の累積値 99% を引き続き支持する。また、2.7km 以上に ISDN が存在しないという件については、既に 2.7km 以上で ISDN が存在することが NTT 寄書 (SMS-9-15 及び SMS-11-05) より明らかであるため、従来通り 5km まで TCM-ISDN が存在することを前提に計算することを支持する。

・ 本寄書に関連する課題

C.4.3	オープン	干渉源の数を変更するか？ (案 1)カッド内 1 回線 + 隣接カッド 1 回線 (案 2)隣接カッド 2 回線	SMS-08-13 SMS-13-07
C.4.3.1	オープン	漏話条件に 1 回線漏話を追加するか？	SMS-09-09 SMS-09-11
C.4.4.1	オープン	2.7km 以遠で ISDN をカッド内干渉源としないか？	SMS-08-13 SMS-09-15 SMS-09-16 SMS-09-17 SMS-10-08 SMS-11-07
C.4.6.3	オープン	漏話減衰量の累積値として、以下の値を使用するか？ (案 1)カッド内、隣接カッド共に 95% (案 2) カッド内、隣接カッド共に 50%	SMS-13-07

以上